

京都で学ぶ

ちまき作りや山鉾巡行など 祇園祭の運営に携わり 1200年の歴史と文化を体感

全学共通科目 キャリア系列「地域活動1」

世界無形文化遺産で日本三大祭の1つである祇園祭を、運営する立場から体験する授業です。本番に先立って、学内で祇園祭の歴史と民俗をさまざまな観点で考察。多くの映像資料を使用しながら、平安時代に始まる祇園御霊会の成立から今日までの変遷、山鉾と神輿、稚児と禿、女人禁制、現在の状況などについて学びます。7月の祇園祭では、受講生全員がボランティア・スタッフとして、祭りの原初形を残す「綾傘鉾」の運営に参加。ちまき作りや販売、鉾建て、山鉾巡行など、平安時代から続く伝統の祭事を体感し、京都の歴史と文化を肌で感じ取るとともに、祇園祭を未来へ引き継ぐための課題と未来像を考えます。

Student's Voice

慣れ親しんだ文化について深く理解できました。

船越 厘沙さん
歴史文化学科3年生
京都府・京都明徳高校出身



最も印象に残っているのが「地域活動1」。青年部や関係者の方々と交流を行い、幼少期から慣れ親しんだ祇園祭について深く学びました。私は綾傘鉾について多くの方に知っていただくために活動。この授業に参加して、ちまき作りの工程を見たり、綾傘鉾の浴衣を着用したりと、普段はできない貴重な体験ができました。

重要文化財を通じて 京都の暮らしの変遷を辿り 古き良き日本文化を学ぶ。

「京都の生活文化」

時代の変遷に伴い、京都の人々の暮らしも変化を遂げてきました。この授業では、京都の歴史を振り返りつつ、京町家「杉本家住宅（重要文化財）」に伝承される江戸時代の暮らしぶりを考察し、当時の生活の特質について理解します。現在では忘れられた慣習などにも目を向けることが、古き良き日本文化を学び、現代の生活の在り方を見直す良いきっかけになるでしょう。

（写真右）昔ながらの典型的な京町家の構成を示す「杉本家住宅」。京都の中心部にありながら保存状態が良く、高い価値を有しています。



アクティブ・ラーニングで 社会に必要な実践力を高めつつ、 京都の産業への理解を深める。

「京都の産業」

グローバル化という大きな変革期を迎えている現在、京都の産業はさまざまな課題に直面しています。この授業では課題解決を目的としたアクティブ・ラーニングを実施。地域の方々をゲストスピーカーとして招き、企業の現状についてお話を伺います。学生たちは講演を踏まえ、京都産業が抱える課題を特定し、グループで具体的な解決策を提案。こうした実践的な学びを通じて、地域経済の発展に必要なスキルを磨きます。

（写真左）丹後ちりめんを使用した小物作成に携わった際の様子



「かやぶきの里」で知られる美山町で 地域の方々との森林保全により、 持続可能なまちをつくる。

「京都モデルフォレスト運動」

森林保全、景観保護、森林生態系における健全性の維持と回復、経済活動の増進等を目的として、森林を持続可能な方法で管理する活動を行っています。2050年カーボンニュートラル実現という大きな目標に向け、学生・教職員・地域が一体となって森林の役割を最大化する森づくりをめざします。

（写真右）京都府南丹市美山町「つながりの森」での活動の様子

